

# 木造校舎から世界へ羽ばたく

～カナダローモンドコミュニティースクールとの交流を通して～

学校名 仙台市立根白石小学校

所在地 〒981-3221  
宮城県仙台市泉区根白石字杉下前15番

ホームページ  
アドレス <http://www.sendai-c.ed.jp/~ase/>

## 1. 研究の背景

森林伐採など開発による自然破壊が進む現代、地球が悠久の時間をかけて育ててきた自然環境が一瞬にして消滅するという危機に直面している。自然豊かな山里の生活も例外ではなく、世代交代と共に、環境保全に対する人々の関心は薄れていく一方である。地球全体での環境保全活動が求められる今日、根白石の豊かな自然環境を守り育てていくためには、子どもたちに広い視野をもたせることが必須である。仙台市内唯一の木造校舎で学ぶ根白石小学校の子どもたちが、世界一豊かな森林を保持するカナダの小学生と交流をすることで、自然を慈しみ、環境問題に関心を持つ児童の育成を目指す。

また、カナダとの様々な交流活動を通して、地域に古くから伝わるアセ踊りなどの伝統芸能や紙の文化として地域に残る七夕祭り、そして震災からの復興を目指す仙台市の取組などを発信することは、子どもたちのコミュニケーション能力の向上とともに、国際感覚に優れた社会人を育成することに繋がると考える。

## 2. 研究の目的

①地元の木材を利用して作られた木造校舎に学ぶ子どもたちが、自然豊かなカナダの文化や伝統を学び、親交を深めることで、環境保全の大切さを考えさせる。

②カナダの小学生との交流を通して、国際感覚を身に付け、自らの意見を積極的に発信できる児童を育成する。

③他国の文化を尊重するとともに、地域の文化を誇り、紹介できる児童を育成する。

## 3. 研究の方法

カナダとのメール交換をすることにより、お互いの学校の実態を知り、文化の違いや何を知りたいかを確認することにより、児童のカナダへの興味関心を高め、総合的な学習の実践研究へとつなげていく。

#### 4. 研究の内容・経過

- ① アルバータ州ホライゾン教育区 Ms. Sweetman にメール送信して、根白石小学校の交流計画を伝え、Partnership Agreement の提携書を作成した。
- ② 国際大学と連携した「ともしびプロジェクト」を通して、提携校であるアルバータ州ホライゾン教育区ローモンドコミュニティースクールへのメール送信の仕方を学んだ。
- ③ 根白石小学校の子どもたちが作ったアルバムや DVD や図工作品等を提携校に送り、交流をする。互いに感想をメールで交換する。
- ④ 3年生の子どもたちが、その題材となる根白石小学校や根白石地区の文化や歴史、地理をまとめたアルバムを作成し、ローモンドコミュニティースクールへ送った。
- ⑤ 6年生が総合的な学習の時間の校内研究において、「ふるさと根白石」という題材で、「根白石について集めた情報に自分なりの考えを持ち、整理・分析をし、カナダに発信する情報を集めよう。」というテーマで研究授業を行った。
- ⑥ 6年生の子どもたちが英語での自己紹介や地域の行事の紹介を入れた DVD を作成してローモンドコミュニティースクールへ送った。
- ⑦ 提携校の子どもたちとメール交換する。
- ⑧ こどもブログを交流のツールとして活用する。
- ⑨ スカイプを活用しての交流計画を立てる。
- ⑩ 提携校との交流実践状況を児童にまとめさせる。(Presentation の準備)
- ⑪ カナダ交流祭(仮称)
  - ・カナダ留学生(国際ロータリークラブ協力)による交流特別授業
  - ・仙台市立中学校や高等学校に在職するカナダ出身のALT(10名)と、仙台市のカナダ出身の留学生を招いて、Canadian Day と称しての交流祭を行う。
  - ・Canadian Day で、交流事業について、児童がPresentation をする。
  - ・Canadian Day で、体験コーナーを実施する。

#### 5. 研究の成果

上記の研究の内容については、①～⑥までを実践した。⑨のスカイプについては時差の関係で大変難しいと考え、DVDの交流をこれからも続けていこうかとも考えている。当初の予定である⑩のカナダ交流祭についても、費用の問題等課題も多い。⑦～⑪はこれからの予定であるが、教職員と十分に検討しながら進めていくつもりである。

前年度と違い、カナダのアルバータ州の副教育長の訪問が5月にあり、カナダとの交流の機運が教職員や児童にも高まってきた。そのような中で、本校の校内研究で総合的な学習の時間を通して、カナダとの交流について真剣に話し合われ、3年生や6年生で研究の礎ができあがり、来年度の年間計画にも位置付けることになったことは、研究として大きな成果であったと言える。

## 6. 今後の課題・展望

今後の取り組みとしては、交流事業において取材活動をして学んだことを、子どもブログで紹介していく。このことは広く仙台市の小中学校にも紹介していきたいと考えているからである。またローモンドコミュニティスクールには、児童会行事で作成している鉢植えの七夕飾りの写真をメールによる添付で紹介をしていく。交流は、メールの他、難しい試みであるが、スカイプでも進めていく予定である。特にスカイプでは、何度か実践する中で小学生同士の討論会が企画できればと思う。ここでは、豊かな自然を利用した生活のあり方や産業の起こし方等について話し合いが発展していくことを望む。

交流活動を通して、学校だけでなく、地域の中で報告会を開き、共に地域のあり方を話し合っていく機会とする。また交流を通じて英語教育の推進も図り、英語教育や国際理解教育のモデル地区となるような方向性も作り上げていく。1年で終わらせる事業ではなく、児童一人一人が自分自身を見つめ直し、将来を考え始める第一歩の歩みとしていきたい。

## 7. おわりに

現在根白石小学校では、教育課程の中の総合的な学習の時間で年間30時間程度の地域学習を進めている。また、本年度は開校140周年に当たったことから、木造校舎の歴史について児童の手による調査活動を行ってきた。使用された木材が学校から見える泉ヶ岳から切り出された物であることは分かっているが、どのように運んで来たか、どの程度の予算が使われたのか等、森林産業の歴史とも重なる内容なので、深く調査活動を行って来た。その過程で、森林を管理している愛隣公益会との交流を深めさせる。豊かな森林を保持・育成していくためには、後継者を育てることが大切であるが、職業として価値を見いだせるかを自分づくり教育の中で取り上げていった。

自分づくり教育には、地域の人々との交流が不可欠である。子どもから発信する町興しに取り組ませていく。根白石商工会の協力を得て、子どもの発想を企業活性化の中で形あるものに作り上げていく。自分なりに予算を立てて、実践していく成功体験を味わわせる。

地元の良さを再認識させた後は、自ら動く力や情報発信力を身に付けさせる。それを今回の交流活動事業で生かしていく。国内ではなく、海外に目を向けさせる理由としては、自然保護活動は一国だけでなく、国境を越えた活動が求められると授業で取り上げていることと、東日本大震災の時に世界中の人々から支援をいただいたことで、児童の世界への関心が高まって来ていることが上げられる。更に、校歌の中にもあるように、この地域の人々の中には昔から世界に羽ばたく児童の育成を期待している。今回の交流活動事業はまさにその試金石と言える。